



## 第三十一回定期総会報告

山内 宗由

令和七年二月十六日（日）、第三十一回定期総会がいわきワントンホテル椿山荘アゼリアにて開催されました。

開催前には、呈茶席が設けられ、坐忘斎御家元筆の「太平多楽平」、竹一重切花入れに一子椿、黒文字が生けられ、振々香合と艶やかな設えのなか、つくしの薯蕷饅頭での一服は、総会開催前の一時を和ませ、一足早い春を楽しませていただきました。

開催にあたっては、総会資料の「式次第」に基づいて進行されました。はじめに村田裕之支部長の挨拶では、昨年中は、設立三十周年を迎えることができ、これもひとえに御家元様はじめ多くの先輩方、会員の皆様方のご尽力の賜物であること、特に伊藤前支部長におかれましては、発足以来、長き

に渡りご指導賜りましたことに敬意と感謝のお気持ちと、これから支部が抱えている課題に取り組んで、風通しの良い支部、エンジョイ淡交会いわき支部；楽しい淡交会いわき支部、「いわき支部の会員で良かった！」と言つていただきけるよう力を尽くしていきたいと抱負を述べられました。

続いて、

鈴木宗恵  
幹事長より

議事に先立ち、議長に佐藤宗玲

様が選出され、書記に大泉宗直様、加澤宗恵様、議事録署名人に松崎宗洋様、関根宗佳様が指名されました。議案である令和六年度事業報告、令和六年度会計収支決算報告、監査報告、令和七年度事業計画（案）、令和七年度会計収支予算（案）、その他（備品）につきまして、審議され満場一致で承認可決されました。

最後に、共済会からの慶弔関係の報告と学校茶道連絡協議会、青年部より、事業報告並びに事業計画（案）が報告され、閉会いたしました。

協力と、皆様のご  
念行事の  
十周年記  
伊藤前支部長への敬意と感謝、今  
期新体制でのスタートにあたつて  
ICTの発達やデジタル化等で変  
わりゆく社会の中であつても、豊  
かな心でお互いを支え合い一服の  
お茶を通して心を通わせる、変わ  
らぬ日本文化を伝承する茶道の良  
さを、一人でも多くの人に楽しん  
でいただけるよう、いわき支部発  
展のために尽力していきたいと述  
べられ、また令和八年に開催予定  
の東北のつどいイン福島について  
も触れられました。

次に、支部役員に委嘱状が授与  
され、退任された前支部長伊藤博



## 第40号

2025年(令和7年)11月1日  
発行 一般社団法人  
茶道裏千家淡交会いわき支部  
鈴木宗恵方 ☎0246-22-8764  
発行 総務委員会



人様、加藤宗  
雪様、柳内宗  
敏様に感謝状  
と花束が贈呈  
されました。

## 楽しかった懇親会

松崎 宗信

二月二十六日。午前の裏千家淡交会いわき支部の定期総会が滞りなく終了し緊張感から解き放たれた午後、懇親会がもたれました。

喉を潤したあとは歓談・会食。お腹にエネルギーが満たされた頃、小松宗具社中の高校生佐藤朱莉さんによるフラダンスです。中学生・高校と六年間フラダンスを習ってきたという高校生が見せてくれたフラダンスはリズムも振りも異なる三曲のダンスでした。コロナ禍以降、生のフラダンスを目近に見ることもなくなった年配者には、そのしなやかさ・輝き・優雅さに目を奪われてしましました。

（佐藤さん、ありがとうございました。この紙上をお借りしてお礼申し上げます。）フラダンスを見終えての感想は「かわいいね」「きれいだね」「私もあんなみずみずしい時があつたのかしら」等々でした。

フラダンスの余韻に浸りながらまた出されたお料理で力をつけて「福引き」となりました。景品は、支部長・副支部長・支部顧問・役員・小野美術さんなどから寄せられたものです。受付の際に手にした番号札と司会者が箱の中から取り上げた番号が一致すれば「当たり」です。

司会者が番号を読み上げる度に

ハラハラ・ドキドキ・ワクワク

でした。伊藤博人支部顧問賞を

得たお二人からは「今年は春から縁起がいいね。」の言葉も聞かれました。三分の一の方々に景品がいきわたったところであとの三分の一の方々には村田支部長とジャンケン対決です。支部長のジャンケンに勝った方々が景品を受け取ることができました。福引きを終えてハラハラ・ドキドキするのもけつこう心身の運動になるものだと感じました。

興奮が冷めやらぬところでしたが、田村副支部長による万歳三唱の音頭で締めとなり、お開きとしました。

また来年も定期総会・懇親会に出席できるように身体に気をつけ、お稽古に励もうと約束をかわして解散となりました。



月金茶会  
五月

佐藤宗●社中

横田  
宗美

開く 不 月釜茶会 六月

●青年部

松本有紀子



五月四日、ゴーレデンウイーク中の気候も穏やかな日に月釜茶会が生涯学習プラザ茶室にて開催され、私は半東を担当させて頂きました。社中内の茶会以外での半東の経験がなく、何度もお稽古して頂き、社中一体となつて準備に臨

二三七

「野馬追」。テーマは

を迎えて、本席は社中の皆で不安を抱えながらも何とか八席開くことが出来ました。

私は茶歴が長いだけで細々と茶道を続けてまいりました。この度、

退職を機に少し茶道の稽古に時間を費やすことが出来るようになり、今回に臨みました。私が常日頃か

六月八日、いわき生涯学習プラザ茶室にて、青年部月釜茶会を行いました。

「星の日」が、なかなか人で、「空と海」をテーマに青を基調とした席としました。

員内で意見を出し合い、形から色までみよしさんに調整いただきました。

最後に支部の先生方初め、お越し頂きましたお客様に感謝申し上げます。有難うございました。

卷之三

全国的に青年部員が減少する中、いわき青年部は支部長、副支部長、支部顧問、先生方のご尽力のおかげで部員を大幅に増やすことができました。

青年部育成委員の方のご協力もい

ただきながら無事に執り行うこと  
ができました。

ができました

思つていただけることを第一に考

えましたが、スムーズな運営の大変さを改めて学ぶことができまし



頻繁に茶会を行うことは難しいですが、今回の反省や発見を踏まえて次回以降の茶会はより良いものにしていきたいと思います。青年部は五十歳未満の茶道愛好者が集う会です。令和七・八年度テーマを「茶道を通して楽しみの輪を広げる」とし、部員が茶道に親しみ、参加しやすい活動を心がけ、その活動を青年部の外に方に知つていただきたいと思いますので、興味のある方はまずはお社中の先生にご相談いただければと思います。



## いわき市茶道市民合同茶会に参加して

管野宗順社中

金成美和子

十月五日（日）、市民茶会のお手伝いをさせて頂きました。

朝の霧雨もすっかり上がり、雲ひとつない秋晴れの中での開催です。

床は、鵬雲斎筆「萬里無片雲」。先日、ご逝去された鵬雲斎宗匠を偲んで掛けられたとのこと。お月見の前日ということもあり、花入には芒が入り、棗は栗時絵。

お菓子はお饅頭。まさに秋。天気も味方してくれて、しつらえにぴったりのシチュエーションでのおもてなしになりました。

拝見の折には、「栗」が美味しく見事な栗焼でした。

### 編集後記

猛暑の夏も過ぎ、炉開きの季節となりました。

八月十四日に、鵬雲斎宗匠がご逝去されました。享年百二歳。長年にわたり私達に茶の湯の道を照らしてくださつたことに深く感謝し、「一盃からピースフルネスを」その教えとお心を道標として大切にしていきたいと思います。心よりお冥福をお祈り申し上げます。



そう。とのお客さまからのお声も。嬉しいエピソードです。

また、お子さんがお入りになつた席では、お軸のせいでしようか。子供に優しく話しかけられている在りし日の鵬雲斎宗匠のお姿が脳裏に。水屋でもお茶を好きになつて貰えるようにと、量など工夫してお出ししたようです。

昨今は、コロナの影響は薄れつつあるものの、お客さまが不安に感じないような呈茶の工夫がまだまだ必要です。今回も、お菓子は長盆から直接、お客様に取つて頂き、点出は脇引盆を利用。飲み終えたお茶碗も脇引盆で複数碗を一度にお下げするというスタイルで実施。

前々からご準備頂いた役員の先生方に感謝申上げます。

結果、お点前が終わる頃には、すべてのお客さまがお茶を飲み終えられ、お茶碗の下げ残しもほとんどありませんでした。

思いがけずではあります。ですが、お客さまをお待たせすることなく、おもてなしすることが出来たように思います。

大寄せの茶会では、い

ろいろな工夫が必要です。そのような意味からもとても良い体験となりました。

